

## 平成 28 年度第 2 回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 平成 28 年度第 2 回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 平成 28 年 12 月 22 日（木） 午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで
- 3 開催場所 一関市役所 議会棟議員全員協議会室
- 4 出席者
  - (1) 委員 阿部新一、及川忠、小山亜希子、河合純子、小池学、小岩邦弘（会長）、金野忠志、佐々木承子、佐藤芳郎、菅原行奈、菅原敏、鈴木加代子、千田久美子、千田博、千葉泰孝、徳谷喜久子（副会長）、戸田良一、永澤由利、永山克男、原田哲、藤野寿美、松岡千賀子、三浦幹夫、水谷みさえ  
欠席委員 熱海アイ子、菅原勇、千葉修
  - (2) 事務局 熊谷雄紀市長公室長、佐藤正幸政策企画課長、藤島修政策企画課主幹、宍戸勝幸政策企画課政策企画係長

### 5 議 題

- (1) 総合計画前期基本計画について
- (2) 総合計画後期基本計画「主な指標」の平成 27 年度末時点の状況について
- (3) 総合計画実施計画（平成 29・30・31 年度）について

### 6 公開、非公開の別 公開

### 7 傍聴者の数 3 人（報道機関）

### 8 挨拶

田代副市長挨拶

本日は、年末のお忙しい中出席いただき、感謝申し上げます。

先ほど、委嘱状を交付したが、委員の皆様には、総合計画に関する審議についてよろしく願います。

総合計画は市の行財政運営の基本指針であり、市が目指すまちづくりの方向性を示すものとなっている。

現在の計画である総合計画前期基本計画は、この総合計画審議会で審議いただいて昨年度に策定し、今年度から 5 年間の計画期間が始まったところ。

計画は、策定することで終わるものではなく、計画に掲げた将来像の実現に向けた取組が重要であり、市では、推進体制として総合計画推進委員会を設置し、計画の進捗管理をしていくこととしている。

総合計画審議会委員の皆様には、今後 2 年間にわたり、主に総合計画実施計画の策定

のほか、計画に掲げた施策の進捗についての検証などをお願いすることから、ご審議についてよろしくお願ひしたい。

本日の審議会では、総合計画の概要、総合計画実施計画における方向性、前計画における「主な指標」の実績等について説明し、ご意見をいただくこととしているので、よろしくお願ひ申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 9 会長、副会長選出

会長に小岩邦弘委員、副会長に徳谷喜久子委員が選出された。

### (1) 会長挨拶

昨年度までは基本構想、基本計画の策定ということで、委員の皆さんと大変な思いをして策定したが、今任期中はチェックが主であり、初めて会長を務めるが少しは気が楽かと考えている。予定どおり進行できるよう、皆様の協力をよろしくお願ひする。

### (2) 副会長挨拶

今回は若い女性委員が多くなったと感じているところ。2年間よろしくお願ひする。

## 10 審議内容

### (1) 総合計画前期基本計画について

【資料】「前期基本計画（H28～H32）の概要」により事務局から説明を行った。  
質疑なし。

### (2) 総合計画後期基本計画「主な指標」の平成27年度末時点の状況について

【資料】「後期基本計画（H22～H27）の概要」

【資料No.4】「総合計画後期基本計画「主な指標」の実績概要」

【資料No.5】「総合計画後期基本計画「主な指標」の平成27年度末実績一覧」

により事務局から説明を行った。

以下、質疑応答。

委員 指標の達成度を出しているが、審議会ではこれを受けてどのように進めていくのか。

指標を個別に見ると達成、未達成という結果で表れるが、他の分野とも関連があり、分野を越えて意見交換していかないと解決できないものもある。

例えば農業者だけで耕作放棄地を解消するのは大変で、地域に住んでいる人達が広く考えていかないと、野生生物が増えて安全が脅かされるといったこともあるので、指標の個別の項目の達成、未達成を問題とするのか、その先に向けて話し合うものなのか。

事務局 資料では、一関市の27年度末時点の数値で把握できる状況について示したも

のである。

審議会においては、市の取組に対する感想、取り組むべき分野や視点などについての意見をいただきたいと考えており、審議会の場でいただいた意見については、各担当課に伝えて、どのような対応が取れるかについて検討することとしている。

また、28年度以降の現計画についても、項目は前計画と一致しないが、同様に指標と5年間での目標を設定しており、来年度以降は目標値に対する実績値を示す予定としている。

委員 この場で色々と提案してもいいのか。

委員(会長) 基本構想における将来像「みつけよう育てよう 郷土の宝 いのち輝く一関」の実現に向けて何をしていくか、ということであり、具体的に数字で目標値を示したのが「主な指標」なので、例えばこの項目は他にも関連があるので、両方を見て取り組んではどうか、というような意見をいただきたい。

事務局 市では、計画の推進にあたり全庁的な組織として総合計画推進委員会を設置しており、いただいた意見についての調整や検討をすることとしている。

委員 高齢化や後継者不在の中で田畑を荒らすまいと頑張っているが、害獣が増えて安全が脅かされたり、農地が荒れたりしている。

一方で、農繁期は人手不足であり、働き手を募っても集まらない。一関の農業や農地を守る人が少しでも増えてくれれば、農家だけではなく、景観が守られることや、そこに暮らす人々の暮らしやすさに結びつくと思う。

委員 国費・県費の入る事業は何かと制約があるが、指標の中で、市単独の予算で実施している事業はあるか。

事務局 指標は事業を実施した結果であり、指標に対応する事業を「関連事業のうち主なもの」として記載しているが、この資料でどれが市単独事業かという整理はしていないので了承願いたい。

委員 市の取組は課単位で行われており、課を横断しての取組が見えないので増やしてほしいし、例があれば示されたい。

指標の達成度について実態と合っているか。例えば市民ボランティアの登録数が指標となっているが、最近はボランティア登録してというよりは、思い立った時に活動するようになっており、ボランティアが減っているわけではないと思うが、そのような数字に表れないものをどう見ていくのか。

指標の達成度と満足度との関係について、地域課題についてのワークショップ

プをやった時に、高校生から最も多く出された意見は、舗装や街灯など道路整備についての要望であった。道路に関する指標の達成度は良好であるが、満足度との関係を今後どう整理するのか。

事務局 部署を横断した事業としては、例えば6次産業化について、農林と商工の担当部署が連携して取り組んでいるところである。

満足度について、最終的には市民が満足していればいいのだと思うが、満足度を計る方法が難しいところであり、数字で表せるものを中心に指標としたところである。

なお、満足度については、市の広聴機能により把握する仕組みを作ったり、計画策定の際に、まちづくりスタッフ会議など市民の意見をいただいたりしているところだが、難しい課題であることは認識している。

また、指標では見えない部分についてのご意見があったが、満足度と同様に、数字により見える部分もあるが、指標で見えない部分や拾い切れない部分もあることは認識している。

指標によって客観的に見ていくほかに、立場によって異なる視点があることから、意見をいただきながらまとめていければと考えている。

委員 達成度は高いがもっと取り組まなければならない、ということもあるので、それも含めて皆さんに知っていただくことも必要だと思う。

委員 協働のまちづくりということで、地域協働体が地域づくり計画を策定しているが、現状では総合計画の実施計画と連動していない。地域の課題解決に向けて連動するような仕組みをつくってほしい。

委員 地域協働体がほとんどの地域で設立され、地域づくり計画が策定されている。特に解決が急がれる地域課題として生活道路や市道の改良があるが、27年度までの実施計画には入っていないところであり、地域づくり計画と連動させる、あるいは地域協働体からヒアリングを行うなどの方法により、今後の実施計画を策定すべきと考える。

事務局 ご意見のあった地域づくり計画を市の計画にどのように反映していくかについては、担当部と協議中である。市全体で共通する課題のほかに地域個々の課題とがあり、地域づくり計画で課題を挙げていたり、対応策まで挙げているところもあるが、地域毎に計画書の作り方に差があるので、それを踏まえてどう解決するかについては、市と地域での話し合いの場を持つ必要があると考えている。

また、道路についての要望があるが、市の財政状況を踏まえると、今後 10 年間の実施計画で建設事業に充てられる経費は一定の規模であり、その中から市全体で考える経費と地域の課題に対応する経費となるが、地域部分については、住みよい地域づくり推進事業枠として、人口割や均等割により地域毎の枠を定めてその中から事業費を賄う方向であり、優先順位を話し合っって進めていく必要がある。

委員 住民主体でできることをやったり、行政とともに課題解決していくような計画を作っており、地域にとっての優先度は地域に任せてもらいたいし、地域づくり計画を反映した実施計画にしてほしい。

委員 予算枠を人口割で決めるということだが、地域によっては人口減少により一層予算措置されないことになるので考慮願いたい。

事務局 人口割だけではなく均等割の部分もあるので理解願いたい。

委員 農業や自然環境の問題は現場において深刻となっている。例えば農地の維持について、どのような状態でどこまで維持できるのか、行政と住民とでここまでは守る、というラインも考えなければならない。また、現在は数値化できるものだけを指標としているが、指標を提案して丁寧に作っていくことも必要になると思う。

### (3) 総合計画実施計画（平成 29・30・31 年度）について

【資料No.6】「平成 29 年度以降に取り組む事業（案）」により事務局から説明を行った。以下、質疑応答。

委員 農地の有効活用について、地番が水田となっているところについて、将来も活用できる状況にあるか疑問であり、農家台帳の見直しが必要と考える。

委員 発達支援体制整備事業として、親の土曜日教室を新設することとしているが、土曜日にした理由は何か。地域の活動を土曜日に行おうとしても、土曜日に勤務があつて来られない若い人が非常に多い。

事務局 平日に開催しているが、仕事の都合で来られないという意見があり、土曜日の開催とするものである。

委員 土曜日に仕事をする人も非常に多いので、その点も考慮してほしい。

委員 「地域づくり」という言葉を色々な場面で使っているが、広い意味でのまちづくりのことなのか、狭義の地域づくり協働体の活動のことかが分かるような表現の整理が必要と思う。言葉が示す対象が分からないと、自分がどう関わっているのか分からないのではないかと。

委員 それぞれの地域に歴史、文化、風土がある。地域の資源を誰がどう見つけて宝にしていくか、総合計画の一丁目一番地に「郷土の宝」を挙げるのであれば、それを具体的に見つけていくことからスタートすることも大事ではないか。

委員 ILCを基軸としたまちづくりについて、ILC計画についての政府の判断が未だであるが、北上高地への放射性廃棄物の最終処分場建設とセットになるのではないかという懸念があり、そのようなことがないという市民への説明も行う必要がある。

事務局 ILCは国際プロジェクトであり、決定に他の要素が入り込むものではないと理解している。

委員 合併前の旧市町村、市民センター単位、集落単位、隣組の単位の全てが「地域」であり、行政の言う「地域づくり」の意味が分からないこともある。

事務局 合併する際に決めた呼び方としては、合併前の旧市町村単位を「地域」、それより細かい単位を「地区」としており、この部分については意識して使っているところ。

#### 11 担当課 市長公室政策企画課